

しんりんかんだより

年主題 「ともに」

月主題

1,2 歳児 なんだろう

3 歳児 かんじる 4,5 歳児 みつける

‘25 第3号 (vol. 99)

2025年6月2日発行



「なんだろう」

4月に入園したひよこ組のSちゃんは、毎朝、登園してくるお友だちを見つけると、“きたきた”と言うように嬉しそうに入り口に駆け出していきます。その笑顔のお出迎えに登園したお友だちも笑顔になります。一方、嫌だいやだの気持ちを体いっぱいに表示している2歳児のOちゃんは、玄関から「やだやだ〜」の音が響いています。Sちゃんの“今日も会えたね…あそぼ”と嬉しい気持ち、“ママとお家に居たかったのに〜”と母を求める寂しい気持ち、いろいろな気持ちがありますね。ママと別れて保育室に入ると遊具で冠を作って被り、ままごと用のスカートを穿いて「Oちゃんかわいい!」と笑顔になっていました。

雨の日土曜日、「雨してみる…」と4歳児のSちゃんと窓を開け、妹の1歳児のUちゃんと共に外の様子を眺めました。バラバラと音を立てて大粒の雨が降っているのを見ていたUちゃん、時々ゴーツと言う音で突風が吹き、雨粒が水たまりに落ちてひろ広がる様子を不思議そうに暫く眺め「あめー」とつぶやいていました。子どもとの生活は毎日がこのような発見の連続です。大人になるとこんなにじっくりと雨を見たり、風の音を聞く事はないですが、子どもが“なんだろう”と不思議に気が付いて立ち止まってくれることで一緒に不思議の世界を体験することができるのです。

2歳児の嫌だいやだの時期は大変ですね。嘗て私も保育園の帰り道で0歳児の娘を抱え、帰らないと駄々をこねる息子に「そんなに嫌ならずっとここにいなさい!」と置き去りにして歩き出したことを思い出します。母や父、大人にだって気持ちはあります。保育者でも母親として子どもに対する時は、感情的になることもあります。時にはそれをぶつけ合ってもいいのではないのでしょうか。“でもOOちゃんの気持ちはわかるよ”ぎゅっと抱きしめると暖かさが伝わります。いろいろな気持ちのやり取りを通して大人も子どもも共に成長しているのではないのでしょうか。

梅雨の時期、雨ばかりでと思いがちですが、生き物たちが豊かに動き出す季節でもあります。子どもたちとたくさんの不思議を見つけて楽しみたいと思います。

(主任 鹿糠 正美)